

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

家庭2名 (PTA会長、PTA母親代表)  
 地域8名 (公民館館長、まちづくり協議会・自治会・連合会会長、子ども会育成会会長、元PTA会長、児童館館長、認定こども園園長、コミュニティスクール代表、地域コーディネーター：地区自主防災連絡協議会会長)  
 学校3名 (校長、教頭、教務) 各1名

(2) 協議会の内容

※開催回数 3回  
 ※開催日程 5/30 (木)  
 11/7 (木)  
 2/26 (金)  
 ※協議内容  
 ・学校の現状と経営方針について  
 ・保護者や地域との連携について  
 ・学校評価について

(3) 協議会における成果と課題

- ・今年度の学校評価で達成状況がやや低かった項目に関し、たくさんの意見をいただいた。特に、「あいさつの啓発」「基本的生活習慣の定着」について、保護者への積極的な働きかけが必要と指摘された。次年度はぜひ手立てを講じたい。
- ・児童の個人情報保護の観点から、名札の着用のは是非について意見をいただいた。同意が得られたことから、次年度、名札を着用しないことにした。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の豊かな物的・人的資源を生かし、これからの社会をたくましく生き抜く力を育む学校づくりに取り組む。

一郷土を誇りに思い、郷土に積極的にかかわろうとする子どもの育成一

(2) 活動の実際

①米作り体験

一円山リゾット米でぼくらも町おこし！2— (5年生)

昨年は、中庭でのバケツ稲づくりや福井しあわせ元気国体でのふるまいに参加し、町おこしに一役買うことができた。児童の「今年もリゾット米づくりに取り組みたい。」という思いは強く、地域団体「円山CMB」に働きかけたところ、今年度は地域の方から田んぼを半反(約5a)貸していただけることになった。

苗植え・稲刈りとも、ほとんどの児童が初体験で、杵を転がして苗植えの位置に印を付れたり、刈り取った稲を束にしたりする活動に、興味をもって取り組んでいた。昔ながらの方法で作業をしたことで、改めて先人の苦勞を知ることができた。

リゾット米づくりは今後も続けていく予定である。「案山子を作りたいね。」など次年度にむけて児童の思いは膨らんでいる。



福井市円山小の5年生約90人が17日、同市東今泉町の田んぼでリゾット専作米「和み」を植え位置の目印を付けたリゾットの田植えを行った。児童たちは泥だらけになりながら、楽しく作業に励んだ。リゾットによるまちおこしに取り組んでいるグループ「円山CMB」が、地域に愛を持ってもらおうと毎年実施している「和みリゾット」は大粒で煮崩れしにくく調理に向いている。4回目となる今年度は、初めて同校5年生全員が田植えに挑戦した。(松澤尚平)

## ②地域の観光PR活動

### －円山い～ざあ－（6年生）

低学年の頃から地域と関わる活動を積み重ねてきた6年生は、今年度の校外学習（6月：福井市中心部）や修学旅行（10月：関西方面）を通して、改めて自分たちの町のよさに気づき、それを発信したいと考えた。



- ・校外学習でのちらし配布（10月：於 東尋坊）

発信内容は、これまでの6年生が作成した「円山の宝物（H29）」「円山の宝人（H30）」を活用することにした。児童は写真やマーカーを使ってちらしを何枚も作成した。当日、東尋坊には県外からの観光客がおり、児童は「福井市の円山地区にもぜひ来てください。」と笑顔でちらしを手渡していた。



- ・大東中校区での交流（12月）

遠隔システムを活用し、近隣の東藤島小・岡保小の6年生に向けて校区の紹介をした。卒業後は同じ中学に進学する関係であり、児童は互いの発表を真剣に聞いていた。

- ・「地域の宝ファイル」の作成（1月）

円山地区のよさをもっと手軽に発信したいと考え、地域の宝をイラスト描いたクリアファイルを作成した。完成したものは公民館や農協・郵便局などの施設に配布し、希望者に自由に持ち帰っていただくことにした。地域の方からは「円山地区のことがよく分かるね。」のような反応が寄せられた。

## （3）地域コーディネーターの活動概要

5年生の活動では、田植えから稲刈りまでの間、田を貸してくださる地域の方と児童をつなぐ橋渡しの役割を果たしていただいた。6年生の活動では、児童が作成した「地域の宝ファイル」を配布する際、支援していただいた。

## （4）特に工夫した事項

平成29・30年度に引き続き、円山公民館の教育事業に深く関わって居る方に地域コーディネーターを依頼した。これまでの活動をよく理解されていることもあり、学校が取り組んでいる本事業について地域の方に広報していただくことができた。

## （5）成果と課題

児童の主体的な発意のもと、地域資源を有効に活用し、豊かな体験活動を実施してきた。収穫物や気づきなどを発信することで、児童は地域のよさを実感できるようになった。しかし、学校評価における地域とのかかわりに関する項目で「地域との交流ができてきているか」との問いに対する肯定的な回答は、児童・保護者ともに8割程度である。今後、さらに地域を活かした教育課程をマネジメントしていくとともに、保護者もより巻き込んだ展開にしていく必要があると考える。